

津嘉山小学校 学力向上推進プロジェクト

1 目 標

児童一人一人の学ぶ力・学び合う力を身につけさせ、確かな学力の向上を図る

2 基本方針

- (1) 沖縄県教育委員会「学力向上推進プロジェクト」及び南風原町「かすりっこ子『学ぶ』プロジェクト」、本校教育目標と児童像の実現をめざし、津嘉山っ子一人一人に、学ぶ力・学び合う力を身につけさせ、「確かな学力」を向上させることを目標に、全職員が一体となって取り組む。
- (2) 学力向上の取組の重点を「授業改善」におき、県学力向上推進プロジェクト「授業改善6つの方策」に基づき、推進していく。
- (3) 学力向上推進委員会を機能させ、学年部会・特別支援部会・専門部会の協同による研究・実践の充実を図り、日常的に取り組んでいく。
- (4) 学校・家庭・地域・行政、津嘉山幼稚園、南星中学校、町内の各小中学校との連携を密にして、地域ぐるみの学力向上を展開する。

3 推進の視点

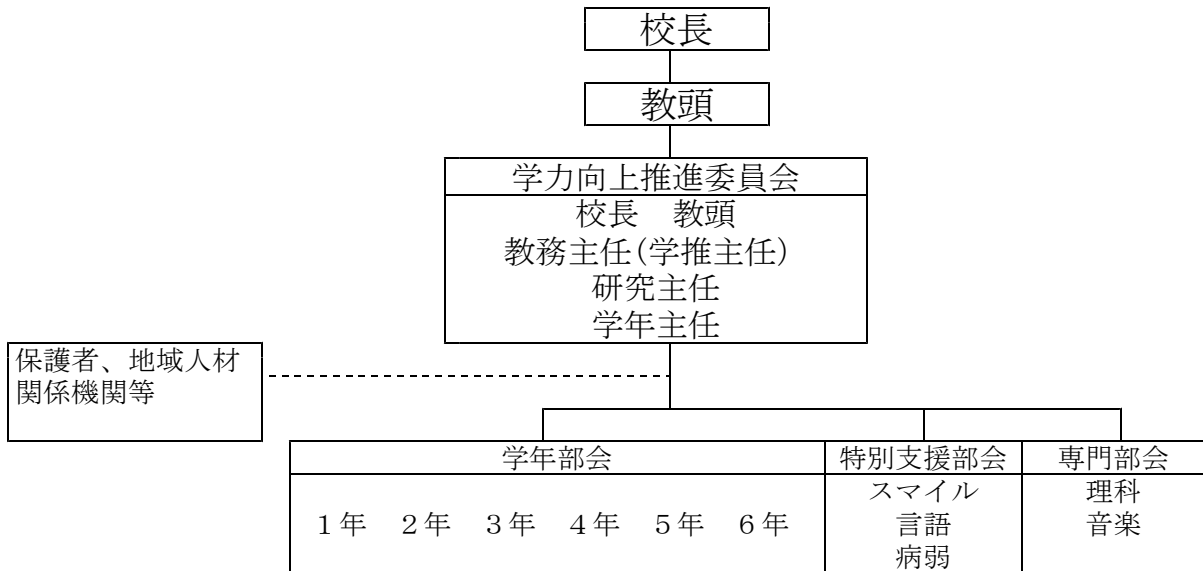
- (1) 児童の実態を踏まえた目標を設定し、学力向上推進の主体的な計画を立てる。
- (2) 学校、家庭・地域社会の役割を明確にし、実施時期、実施対象、実施方法などを明らかにした具体的な計画に基づいた学力向上を推進する。
- (3) 具体的な取組の共通理解を図り、継続して取組むことができる日常的な学力向上を推進する。
- (4) 児童の実態に基づく具体的な達成目標を設定し、日常的な取組をする中で活動を評価して取組を見直しながら実践するマネジメントサイクルに基づき実効性のある取組を展開する。

4 取組の重点

- (1) 児童同士・児童と教師の信頼関係を築いて、児童が安心して学びに向かい、聴き合い・学び合いができる学級づくりを行う。
- (2) 「授業改善6つの方策」の5方策を共通実践する。
 - ① めざす授業像の共有
 - 主体的に「問い」をもち、自分なりの考えをもつ。
 - 「対話」と「協同」（ペア学習やグループ活動）による聴き合い・学び合う。
 - 授業におけるICT（電子黒板）を積極的に活用する。
 - ジャンプ問題（活用力の育成）を入れた45分完結の授業を行う。
 - ② 教材研究の充実
 - 学年会を充実させ、教材研究ノートや授業デザインシート等を活用する。
 - 日常授業の省察等による授業力の向上を図る。
 - 校内研修・授業研究会の充実を図る。
 - ③ 学力向上マネジメントの推進・共有・浸透
 - めざす授業像を共有し、浸透させる。
 - 到達目標を設定し、具体的な手立てや道筋を全職員で共有する。
 - 取組の進捗状況を定期的に点検し、課題については新たな改善策を講じる。
 - 同僚性を構築し職員相互が学び合い、成長を促す職場風土を醸成する。
 - ④ 学習を支える力の育成
 - 規範意識・マナーの向上（挨拶や返事、他人を思いやる心や認め合う心を育む）
 - 2分前着席、そのまま黙想（チャイムと同時に授業開始）、45分完結授業を実践する。
 - 学習規律の徹底（学習準備、片づけ、座る姿勢、話し方、聞き方、メモ等）を各学期始めに徹底する。（学年同一歩調）
 - 授業と連動した宿題、自主学習を推進する。
 - 読書する習慣を身に付け、豊かな心を育む。
 - 「早起き・朝ご飯・徒歩登校・適度な運動・家庭学習・早寝」（かすりっこスタイル）を家庭と連携して確立する。
 - 対話を通して心の居場所をつくり、絆を深め、自尊感情を高めて、夢や希望を育む。
 - 多様な体験活動（学校応援隊はえばるの活用等）を通して、学習に対する興味・関心・意欲を高め、問題発見・問題解決力、社会性を育む。
 - ⑤ 集団づくり・自主性を高める取組の充実

- 教師と児童の信頼関係や児童相互の温かい人間関係を築き、子ども同士が自分の考えや思い等を安心して表現できる支持的風土の学級づくりに努める。
 - 生徒指導の三つのポイント（①自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育てること、③自己決定の場や機会を与えること）が生かされた授業を日常的に実践する。
 - 学びに向かう集団づくりを進める学級活動及び児童会活動の充実を図る。
- (3) 学習の定着を図るために、「さよなら学習」や補習指導、家庭学習を充実させる。

5 組織図



☆学推主任が中心となって全体をリードしていく。

- ・学推主任が「学力向上推進プロジェクト」(案)を作成し、学力向上推進委員会において検討する。
- ・各取組状況に応じて、学力向上推進委員会を開催する。
- ・地域人材が必要な場合、学推主任・地域連携担当を通して依頼する。
- ・各学年・特別支援部会の成果と課題を全体で共有する。
- ・報告書の作成を学推主任が中心となって行う。
- ・専門部会は、掲示教育担当と連携しながら、校内掲示板を活用した資料の掲載を行う。

6 主な取組内容

(1) 校内研修の実施

- ① 講師を招聘して、「学びに向かう態度を育む学級づくり」の研修会を実施する。
- ② 校内研修テーマに沿った「聴き合い学び合いを取り入れた授業」を共有する。
- ③ 自主公開授業、示範授業等を通して、授業力を高める。

(2) 日常授業の省察、互見授業、学年会の充実による学級経営・授業力の向上を図る（上記：授業改善5つの方策の実践）

(3) 読書に親しむ（本好きにする）

- 月・火・木曜日・8：15～8：25（読書） 金曜日・8：15～8：25（読み語り）

(4) 長期休みの補習指導（夏休み「あさがお教室」）

(5) 掲示板の活用

- ① 学習した内容（重要事項）の掲示
- ② 詩やことわざ等、心に響く（学習意欲を高める）資料の掲示
- ③ 言語能力を高める資料の掲示
- ④ 学びに向かう・学び合う態度のよさを啓発する資料の掲示

(6) 各取組の推進・充実

① 学習規律強化月間（4月）

ア 基本的な学習規律の徹底

- ・2分前着席、そのまま黙想
- ・授業終始時刻のけじめ
- ・学習準備、片づけ、座る姿勢、話し方、聞き方、メモ等

② 家庭学習推進月間（4月）

ア 「家庭学習」についての一斉学級指導の実施

- ・「推進月間」の意義を説明
- ・各学年の「家庭学習の進め方」を確認
- ・宅習帳の使い方の確認
- イ 児童の学習意欲を高め、マンネリ化にならない家庭学習のさせ方・与え方の工夫をする。
 - ・学年会を通して各学級の実践の交流を図る。(実践の共有化を図る)
 - ・量・質共に優れた「宅習帳」の写しを掲示するなど啓蒙を図る。
- ウ 学年朝会の活用
 - ・「家庭学習の意義」の講話
 - ・家庭学習を頑張った児童の表彰(12月の教育の日)
- ③ 生活実態調査(5月、9月)
 - ア 生活リズムの把握・啓蒙
 - イ 家庭学習・家庭読書の状況

7 目標達成の指標

- (1) 授業がよく分かる(90%)
 - (2) 分からないところがあったら、「教えて」と訊くことができる(90%)
 - (3) 友達と学び合う学習が好き(90%)
 - (4) 家庭学習の実施(宅習帳の提出)(90%)
 - (5) 読書冊数目標達成者(90%)
 - (6) 全国学力学習状況調査(平均正答率80%以上)
 - (7) 単元テスト(正答率80%以上)
- ※ 全国学力学習状況調査や標準学力調査の結果を保護者へ配布する。

8 本校の学力向上推進取組(計画・結果)の公表

- (1) 学力向上推進プロジェクトの取組計画の説明
 - 町学校公開日(5月)に行う。
- (2) 学力向上推進実践発表会で成果や課題を示す
 - 町学校公開日(12月)に行う。
- (3) 学校便りやホームページ等で紹介する